

## 山口県立きらら浜自然観察公園の新たな干潟造成地における生物定着状況の調査について

山口県環境保健センター

元永 直耕・川上 千尋・上原 智加\*・梶原 丈裕・横瀬 茂生・佐々木 紀代美・  
谷村 俊史・下尾 和歌子・堀切 裕子

\*現 周南健康福祉センター

特定非営利活動法人 野鳥やまぐち  
寺本 明広

About an investigation into the living condition of benthos in the new developed tideland of the  
Yamaguchi Prefectural KIRARAHAMA Nature Observation Park

MOTONAGA Naotaka, KAWAKAMI Chihiro, UEHARA Chika<sup>\*1</sup>, KAJIWARA Takehiro,  
YOKOSE Shigeo, SASAKI Kiyomi, TANIMURA Toshifumi, SHITAO Wakako, HORIKIRI Yuko,  
*Yamaguchi Prefectural Institute of Public Health and Environment*

<sup>\*1</sup>*Shunan Health and Welfare Center*

TERAMOTO Akihiro  
*Yacho Yamaguchi Specified Nonprofit Organization*

第 24 回自然系調査研究機関連絡会議 調査研究・活動事例発表会 要旨集, 10 (2021)

山口県は 2001 年、山口湾沿岸の阿知須地域に、「山口県立きらら浜自然観察公園」を設置しており、園内では、淡水池、ヨシ原、干潟、汽水池、樹林地を利用した観察会等を通じて、子供から大人まで多くの方が自然に親しんでいる。

本公園では、園内環境を充実させる新たな取組みとして、2019 年度から、汽水池の一部に海砂を投入し、およそ 150m<sup>2</sup>の砂質砂干潟を造成した。

当該干潟は、山口湾と防波堤を隔てて隣接し、湾内の干満に連動して海水が園内に入出入りするが、湾内に比べて波浪や食害の環境影響は少ないと考えられるため、アサリ幼生の新規供給場所の確保や、観察会等への参加者のアクセスの容易さなど、「榎野川河口域・干潟自然再生協議会」の里海再生活動の相補的な役割を担うことができる場所として期待されている。

本調査では、実際にアサリ母貝団地設置や観察会等の場所として活用できるかを検討するため、榎野川河口干潟でのアサリ資源保護の実績を活用した被覆網等を用いたアサリ成育調査、底質分析及び底生生物定着調査を実施した。

アサリの成育調査は、令和 2 年 5 月から令和 3 年 3 月において、被覆網下での母貝生息試験により生残率が 50%以上となった。一方、アサリの稚貝の自然着底はほとんど確認できなかった。

底生生物定着調査については、砂干潟に生息する腹足類（ウミナナ類）や十脚類（カニ類）が多く散見されるようになり、指定管理者である NPO 法人野鳥やまぐちによる自然観察会が行われるようになった。

現在、観察会が継続されている一方で、アサリ保護・育成については、被覆網を新たに設置し、アサリの自然着底に向けた調査を継続している。